

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ラック宿院スタジオ			
○保護者評価実施期間	令和6年 8月 24日 ～ 令和6年 9月 10日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2名	(回答者数)	1名
○従業者評価実施期間	令和6年 8月 24日 ～ 令和6年 9月 10日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数)	7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年 9月 10日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	コミュニケーションスキルの向上が期待される。 言葉話す事が難しい子どもに対してのアプローチ方法をスタッフに身に付けている。 子どもの意欲を引き出す事でそこから要求に繋げている。	イラストカードを使用出来る様に壁に貼っている。また、子どもに合わせたコミュニケーションツールを使える様に50音表やホワイトボードなどを設置している。 子どもの要求を引き出すためにスタッフが先に動くのではなく、待つ事を大切にしている。	定期的にスタッフに勉強会やミーティングなどで対応方法を共有していく。
2	運動能力の向上や維持が期待できる。 運動をする事で筋力低下を防ぐことが出来る。 また、跳び箱や竹馬、大縄跳びなどの様々な運動活動に参加し、取り組む事で徐々に出来るようになる可能性がある。	無理に取り組むのではなく、子どもがやりたいと思えるような言葉かけをしている。	運動担当のスタッフを中心に取り組んでいる為、支援方法にブレがない。
3	美術活動に取り組む事で手の細かな動きや手先を使う機会が増え、道具の使い方も学べる。	絵の具やお絵描きなど、苦手な子どもも少しずつ興味を持って取り組めるようになる。また、美術活動が好きな子どもは、制作活動に意欲的に取り組み、イメージしながら自由に作る事が出来ている。	自由に制作出来る環境作りをしている為、のびのびと自由に取り組む事が出来る。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	子どもたちの支援に対して、スタッフが先に動いてしまう事がある。	子どもたち一人ひとりに合わせた支援を行う中で、個別に対応しているが、スタッフが子どもが行動しようとしている時に先に動いてしまい、待つ事が出来ない場面がある。	毎回、ミーティングで子どもの対応を共有していき、対応方法を覚えてもらう。子どもにとって何が必要なかを理解してもらう。
2	スタッフによって支援の方法にブレが生じる。	子どもに支援を行う時になるべく支援の方向性を揃えて行きたいが、スタッフによって異なる事がある。	支援を行う中で、スタッフ間の連携を図っていく。
3	一人ひとりのスペースの確保が難しい。	子どもたちが成長し、一人ひとりのスペースが狭く感じている。	物の配置を変える。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		ラック宿院スタジオ		公表日					年 月 日		
利用児童数 令和6年9月10日 2名										回収数 1名	
		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応			
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	1					運動スペースは広く取り、美術活動は棚で区切っている。子どもたちにも分かりやすい様にマットで色分けし、運動活動と美術活動と分けている。また、相談スペースも確保している。			
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。				1		現在スタッフに保育士、児童指導員などを配置し、それぞれの専門性を活かして療育している。人員配置も満たしている。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	1					生活空間は分かりやすくなっている。事業所が2階にあり、階段を使用している。安全の為、階段は手すりが付いている方を使用してる。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	1					療育後は毎日掃除をして清潔を保っている。また、ドアノブやおもちゃなどは、毎回消毒をしている。			
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	1					必要に応じて研修や日々のミーティングなど、スタッフ間で連携出来る様に努めている。			
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	1					運動活動と美術活動を行い、コミュニケーションを支援する療育であり、支援内容と合っている。			
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	1					スタッフ会議を開き、個別支援計画を作成している。毎日の子どもたちの様子を細かく記録している。			
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	1					色々な視点から分析し、支援内容を設定している。その都度、ミーティングで対応方法を模索したり、検討して対応している。			
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	1					基本的に個別支援計画書に沿って支援している。ミーティングの時に注意事項を記入している用紙に個別支援計画の短期目標を記入して、毎回確認をしている。			
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	1					プログラムが固定化しない様に子どもたちが発信した事を取り組む事もあり、プログラムが決まっていない。			
保護者 への 説明等	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。				1		今の所、機会がない為、検討していきたい。			
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	1					運営規定は契約時に書面に沿って保護者様に説明を行っている。支援内容は見学や体験利用時にも説明をしている。利用者負担の説明も行い、保護者様からの質問にも応じている。			
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	1					保護者様に説明をしている。支援内容だけではなく、子どもたちのご様子も含めてお話をしている。			
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。				1		子どもたちに対しての支援方法を助言する事はあるが、研修会などは機会があれば行って行きたい。			
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	1					基本的に毎回、ご様子をお伝えしている。また、体調面や学校からの申し送りなどもお伝えしている。			
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。				1		保護者様から要望や相談があれば、その都度行っている。			
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	1					子どもたちの立場に立ちながら支援している。			
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。				1		父母会の活動や保護者会等の交流の機会は、今後検討していきたいと思う。			

	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	1					受け入れ体制が可能な時は、受け入れしている。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	1					申し送りをきちんと行っている。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	1					美術活動の内容が書かれたスケジュール表を毎月、お渡ししている。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	1					個人情報に関しては、適切に対応している。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。				1		契約を行う時に説明をしている。また、避難訓練を実施している。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	1					地震・津波と火災訓練を行っている。非難する時の物資も常に準備し、スタッフにも周知している。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	1					入り口の扉に鍵を設置したり、柵を固定する等、常に安全に過ごせる様にしている。また、掃除をする時に破損していないかチェックしている。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	1					怪我をした時は、子どもの対応をしながら別のスタッフが保護者様に連絡を取り、状況説明を行っている。また、自宅に送った時に怪我をした箇所を保護者様
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	1					笑顔で来所している子どもが多く、安心していると思う。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	1					保護者様から毎週、楽しみにしているお話をお聞かせ頂く事がある。
	29	事業所の支援に満足していますか。	1					子どもたちは日々成長している為、その都度対応も変わって来る為、知識と経験を活かしながら楽しく過ごせる様に努めていきたいと思う。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		ラック宿院スタジオ					公表日	年	月	日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点				
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		運動スペースは広く取り、美術スペースは棚で区切っている。					
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7		適切である。					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7		生活空間は分かりやすくなっている。事業所が2階にあり、階段を使用している。安全の為、階段は手すりが付いている方を使用している。					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		療育後は毎日掃除をして清潔を保っている。また、ドアノブやおもちゃなどは、毎回消毒をしている。					
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7		個室の場所を使用する事を認めているが、一人ずつ順番に使う必要がある。	個別の場所を使用する事を認めているが、一部屋しかなく、スペースが狭い。				
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7		ミーティングの時に個別支援計画の内容や面談での情報などをスタッフに周知している。	出勤時間によっては、ミーティングに参加出来ないスタッフもいるが、注意事項が書かれた用紙を見てもらい共有している。				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		スタッフ会議で周知している。					
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7		その都度、話し合い業務改善に繋げている。					
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	3						
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4	3	機会がある時は参加している。また、研修を受けた後にスタッフに周知している。					
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7		HPに紹介している。					
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7		適切に行っている。					
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7		出勤しているスタッフで会議を行い、話し合いをしている。					
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7		ミーティングで共有している。 また、ミーティングでは、注意事項用紙を作成し、その中に個別支援計画の短期目標も記入している。					
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		必要な場合は、確認している。					
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		色々な視点から分析し、支援内容を設定している。その都度、ミーティングで対応方法を模索したり、検討して対応している。					
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		美術活動と運動活動それぞれリーダーがおり、そのスタッフ中心に決めている。スタッフからも意見があれば聞き入れている。					
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7		プログラムが固定化しない様に子どもたちが発信した事を取り組む事もあり、プログラムが決まっていない。					

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせで児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	7		活動によって個別で行う活動と小集団活動を行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5		毎日、ミーティングを行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	1	その日に出来ない場合は、次の日のミーティングの時に話をしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7		毎日、個別に記録をつけている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7		行っている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		基本的にサビ管が出席している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		連携している。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		行っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		担当者会議を開催するなど、情報共有を行っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	5		必要に応じて行っている。	
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
保 護 者	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	6	1	保育園を利用している為、機会はある。	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		申し送りの際に保護者様と事業所での様子をお伝えしている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	2	保護者様に参考程度に支援の方法を伝える事はある。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		運営規定は契約時に書面に沿って保護者様に説明を行っている。支援内容は見学や体験利用時にも説明をしている。利用者負担の説明も行い、保護者様からの質問にも応じている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		面談の時や随時保護者さんの要望に応える様にしている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6		行っている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		行っている。	

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		7		父母会の活動や保護者会等の交流の機会は、今後検討していきたいと思う。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		対応している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		美術活動の内容が書かれたスケジュール表を毎月、お渡ししている。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。		7	個人情報に関しては、適切に対応している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。		7	申し送りをきちんと行っている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		5		機会があれば行ってきたい。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		契約を行う時に説明をしている。また、避難訓練を実施している。	
非常時等の対応	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。		7	地震・津波と火災訓練を行っている。非難する時の物資も常に準備し、スタッフにも周知している。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。		6	フェイスシートやアセスメントシートに記入してもらい、さらに口頭でも確認している。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		6	している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。		6	部屋の窓の施錠や玄関ドアの鍵をするなど、暗線管理を徹底している。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		5	見学や体験会の時に部屋の設備に関しても説明を行っている。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。		6	毎回、行っている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。		5	年1回研修をしている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。		5	身体拘束を行っていない。	